



(写真3) 局長とイスタンブール地区教育局で

イスタンブールにはグランドバザールというオスマントルコ時代から続く伝統的な屋内市場があるが、近代的なショッピングセンターもいくつも存在している。その中のアクマルクトゥ・ショッピングセンターを訪れた。ここは高級住宅街の中にあり、富裕層をその購買層としている。トルコの近代化を象徴しているかのようで、世界的に有名なブランドショップが数多く出店していた。1996年には世界のベスト・ショッピングセンターに選ばれているとのことであった。さらに、最新の動向を通り入れ、改築の予定があるとのことであった。トルコ国内の購買力の旺盛さを実感させられた。

視察期間はきわめて短いものであった。しかし、当然ではあるが国内には頭では理解できていると思っていることが、実際に目の前で体験できるとは認識のレベルがまったく違ってくる。今回の視察ではヨーロッパの2都市を訪れたが、そのどちらも歴史的にはきわめて古くからの都市であるが、宗教が異なりその様相はまったく違っていた。一方はイスラム教、もう一方はキリスト教である。そこから起因する文化や習慣がまったく異なっていると言っていていいであろう。そして、われわれは日本を基盤として生活しているのである。2つの都市では宗教が人々の心のよりどころとなっている。宗教を語らないことには、文化や生活習慣は十分に理解できないであろう。しかし、われわれはグローバルな経済の中で生活しており、相手を理解しようとする姿勢が強く求められている。このことを商業を学ぶ生徒にはぜひ伝えていかなければならない。このことが達成できれば、今回の海外事情視察の過半の目標は達成できたと言えるであろう。さらに、今回参加された商業の先生方の人的ネットワークが広がればそれに勝る喜びはない。

B ファイル

—諸説あるプログラミング言語「Java」の名称の由来について—

全国商業高等学校長協会 公益財団法人全国商業高等学校協会 前理事長 森田 聖一

「Java」というアメリカ生まれのプログラミング言語がある。全商協会の情報処理検定試験においても平成25年度より出題予定であるが、なぜ、アメリカのプログラミング言語にインドネシアのジャワ島（インドネシア語で Jawa、英語で Java と表記）の名前がつけられているのだろうか？

インドネシアでは昔からジャワ島の他に、バリ島、スマトラ島などでコーヒー栽培が盛んであるが、特にジャワ島やスマトラ島で生産されるコピ・ルアク（インドネシア語 Kopi Luwak）は、世界でも高価なコーヒーとして有名である。「コピ」はコーヒー、「ルアク」はマレージャコウネコという意味のインドネシア語で、マレージャコウネコに完熟したコーヒー豆を食べさせ、その糞から未消化のコーヒー豆を取り出し、洗浄、乾燥、焙煎したものがコピ・ルアクである。ルアクが食べたコーヒーの実の量の2割しか豆がとれないため希少価値があり、通常100gにつき¥5,000以上で販売されていることが多いようである。

そのコピ・ルアクを象徴とするインドネシア産のコーヒーがアメリカに輸出され、インドネシア産コーヒーが一般的になるようになり、アメリカではCoffee全般のことをJava-Coffeeと呼ぶようになった。そこで、このアメリカ生まれのプログラミング言語がCoffeeのように身近にあり、親しみのもてる、手軽な言語になって欲しいという願いを込めて「Java」という名称になったということである。

かつて私がジャワ島を訪れた際、コピ・ルアクを生産している現地の方が自信をもって同様の趣旨のお話をされていたことを思い出す今日此の頃である。



マレージャコウネコ